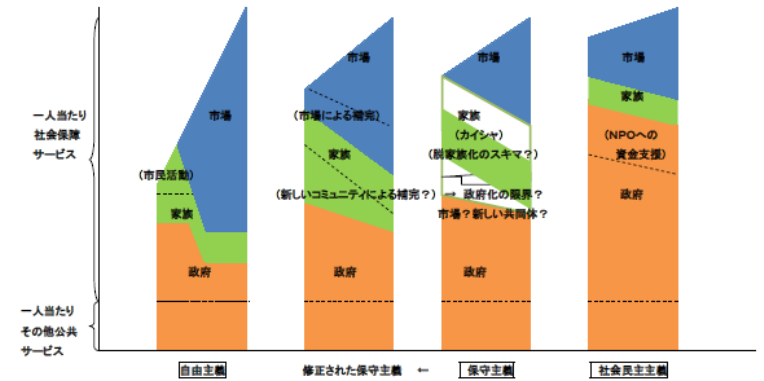


目指すなかに、自立した参加型の社会を
日本
の
未来
が
ある

地縁型コミュニティの弱りを一体何がサポートしていくのかだが、**新しいアソシエーションが重要**。
NPO、サークル団体やクラブ団体の力を公益に結びつけることが大切。**その部分を総結集すれば、保守主義から少し自由主義に寄せた形でこの白い部分を埋めていくことは可能**と思う。(①山崎)

家族が機能しない、結婚しない、一人で生きていく人もいる。そんな中で、**家族じゃないが、家族より助け合える関係**がある。シェアハウスのように新しい形も出てきている。**ネットワーク化されたテクノロジー**を使えば、**支えあいの関係は、国を超えて、世界中の人を巻き込むことができる**。そのデザインが大切だし、そこに名前がつけられたらいい。(⑩林)

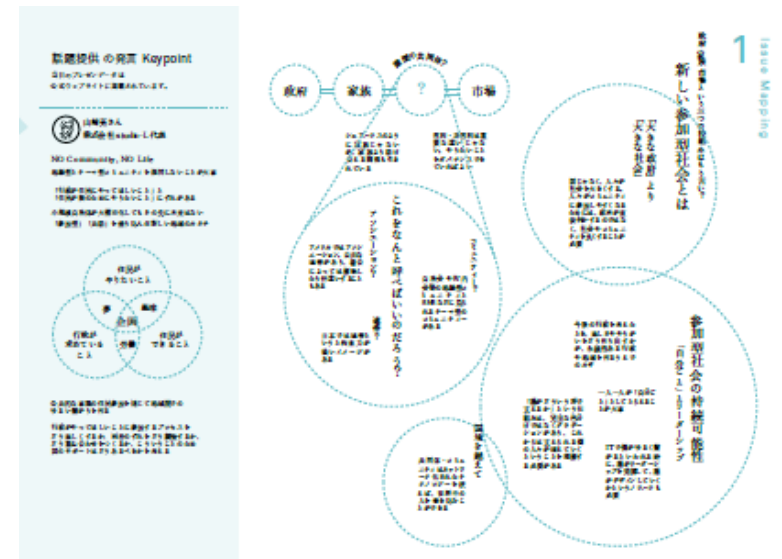
世界の潮流を見ると、目指すべき国のかたちは「**参加型社会**」というこの方向性しかないと思う。
ラジオ体操しないと生きていけない社会は嫌だが、**全部国がやってくれる社会は無理**だろう。(⑩古市)



(注1) 社会保障サービス等について、「市場」、「家族」、「政府」の提供主体の位置づけの違いに着目し、3つの社会モデルを提示。各棒グラフにおいて、「左端」は低所得者の受益レベル、「右端」は高所得者の受益レベルを想定している。グラフの黒線の勾配は、低所得者と高所得者との間の受益レベルの差を示している。「保守主義(高齢化の進展ケース)」は、社会保障サービスの受益者たる高齢者の増加により、棒グラフの高さが伸びていることで表現している。

(注2) エスピン・アンデルセン「ポスト工業社会の社会的基盤—市場・福祉国家・家族の政治経済学」(渡辺雅男・梶子訳、桜井書店)のイメージを応用

サービスの提供主体に着目した「3つの社会モデル」のイメージ(アンデルセンモデルの応用)



新しい参加型社会とは
(出典:第10回懇談会 グラフィックレコーディング)